

## 久留米大学を受診した患者さんへ

「生殖補助医療後妊娠における周産期予後および予後に関連する因子の抽出に関する疫学的研究（主に臍帯および胎盤付着部異常について）」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 25 年 1 月から平成 27 年 12 月 31 日まで
- 2) 受診科：産婦人科
- 3) 対象疾患名：妊娠女性
- 4) 使用する情報：診療情報

あなたの情報を医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

**研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。**

**ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。**

- 1) 研究組織：所属：久留米大学産婦人科学講座
  - 研究責任者：教授 堀 大蔵
  - 研究分担者：助教 黒川 裕介
  - 主任教授 牛嶋 公生
  - 准教授 吉里 俊幸
  - 助教 上妻 友隆
  - 助教 後藤 薫
  - 助教 立花 崇

共同研究機関：日本産婦人科学会周産期委員会

### 2) 研究の意義と目的：

近年不妊治療後の妊娠が増加傾向にあります。不妊治療、特に生殖補助医療後妊娠（体外受精など）は、胎盤付着部異常または臍帯付着部異常を伴う報告がされております。胎盤付着部異常は分娩時に大出血を伴う危険性があり、臍帯付着部異常は胎児発育不全、分娩時の出血など、より慎重な妊娠分娩管理を必要とし、周産期予後に影響を及ぼす可能性が考えられます。

そのため 2013 年から 2015 年に日本産婦人科学会周産期登録データベースに登録された（久留米大学病院産科病棟で出産した妊婦さん）データを用いて、生殖補助医療後妊娠と胎盤付着部異常、臍帯付着部異常との関連を探り、周産期予後にどのように影響したかを調べます。

3) 研究の方法：

日本産婦人科学会周産期登録データベースを基に生殖補助医療後妊娠群と非生殖補助医療後妊娠（自然妊娠、排卵誘発後妊娠）の2群に分け、胎盤付着部異常の有無、臍帯付着部異常の有無および周産期予後との関連を調査します。

4) 研究期間：平成28年11月倫理委員会承認後～平成30年3月31日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：

今回使用する日本産婦人科学会周産期登録データベースは、日本全国の総合周産期母子医療センターなど約413施設（久留米大学産婦人科を含む）が利用しています。久留米大学を受診された妊婦さんの診療情報に併せて登録ベースを利用することで周産期予後について全国での評価が可能と考えられるためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

日本産婦人科学会周産期登録データベースは日本産婦人科学会周産期委員会が管理しており、データは連結不可能匿名化された状態で提供してもらうため、氏名、住所、電話番号等の個人情報が漏れることはありません。今後学会発表等行う際にも、個人が特定できる形での情報公開は行いません。登録データは産科婦人科学教室内のインターネット未接続のコンピュータ内に保管します。

7) 研究成果の発表の方法：

得られた情報は論文によって公表する予定です。

8) 利益相反：特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）黒川裕介（所属：産婦人科、職名：助教）

（住所）久留米市旭町 67 番地 産婦人科学講座

（TEL）0942-31-7573（FAX）